

令和5年度永山まちづくり実行委員会の事業報告及び決算

資料2

(単位：円)

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
1	地域自主除排雪事業 (永山冬みち守り隊)	雪国のテーマとして、住民の日常生活と密接に関係が深い生活道路の除排雪問題は重要な課題であり、今年度も説明会・パトロール等の啓蒙活動のほか、住民の空き地を無償で借り、交差点の雪を除雪するなど取り組むことで成果をあげてきた。 ・実行委員会 R5.12.6(水) ・住民説明会 R5.12.15(金)32名参加 ・除排雪パトロール R6.1.19 南西地区市民委員会 24名参加 R6.1.20 むつみ町内会 22名参加 R6.1.21 第3地区市民委員会 32名参加 R6.2.25 第3地区市民委員会 37名参加	本事業の取り組みに対して、地域各企業・市民の理解が得られ、空き地を利用できるなど除排雪等の活動を更に促進させてきた。11年目になり説明会・パトロール等実施により路上駐車もほとんどなく、道路への雪だしもかなり改善されている。 ただ、一部の住民が敷地内の雪を道路に出しているとの報告もあり、この事業を継続することが大切であると思っている。	10,000	済 2,516 予 0 計 2,516	7,484
2	永山地域文化保存・振興事業 (永山地域文化振興実行委員会)	令和5年10月28日(土)～29日(日)に永山公民館で開催された、永山文化協会主催の「永山地区文化祭」において、郷土資料館にある資料の作品展示を行った。	資料の選定から展示設営までを旭川市立大学の学生たちが行ったことで、郷土資料への愛着や関心を高めてもらうよい機会となった。	10,000	済 4,848 予 0 計 4,848	5,152
3	地域のオタスケマン事業 (地域のオタスケマン実行委員会)	令和5年6月29日(木)に永山西小学校3年生3クラスの総合的学習の時間で、地区市民委員会会長・交通部長・防犯部長の3名で授業を実施。見守りや交通安全、ボランティア等の質問を受け、終了した。 その後、授業を受けた3年生が自発的に「自分たちもできるボランティアがないか」を話し合った結果、同年9月26日(火)に児童、むつみ町内会、市民委員会、父兄等が参加し地域のゴミ拾いを実施した。	限りある時間の中だったが児童からたくさんの質問もあり、町内会やボランティアの大切さを伝えることができた。 その後、児童が自主的にゴミ拾い活動を実施したことはボランティア精神の芽生えにつながった。また、児童が地域の人たちと一緒に話をしながら活動することは地域に見守られている安心感に繋がり、非常に有意義であった。	10,000	済 0 予 0 計 0	10,000

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
4	旭川市立大学の屯田まつり支援事業 (旭川市立大学の屯田まつり支援実行委員会)	旭川市立大学保健福祉学部の信木教授(当実行委員会会長)の指導の下、コミュニティ福祉学科の新生が、永山地域や屯田まつりの歴史を学び、工藤永山まち協委員の調整により、永山第二市民委員会の皆さんと舞踊パレードに参加し、屯田まつりを大いに盛り上げた。 ・R5.5.24 第1回実行委員会開催 ・R5.7.20 大学生を対象にした永山屯田おどり練習会及び交流会を実施 ・R5.7.30 第37回永山屯田まつりの舞踊パレードへ大学生29名、教職員5名、大学関係者計34名が参加 ・R5.8.31 第2回実行委員会において今年度の実行委員会活動の振り返り等を行った	踊りの練習にとどまらず、グループごとでの地域住民と大学生の交流などを通じ、屯田まつりの歴史の継承につながる活動ができた。 まつり当日も活気溢れるまつりにつながる活動となった。 学生も有意義な時間を過ごし、地域も若い学生との交流を大変喜んでおり、次年度以降も継続していきたい。	10,000	済 0 予 0 計 0	10,000
5	永山第三SOSネットワーク事業 (永山第三SOSネットワーク実行委員会)	R5.10.19に設立フォーラムを開催し、当日は38名の参加があった。 【設立フォーラム内容】 ・りんどう法律事務所 富田弁護士による「個人情報の取扱いについて」 ・シンポジウム コーディネーター 旭川大学栗田克己教授 報告者 神居江丹別地域包括支援センター 廣長センター長、介護者 立井進氏 SOSネットワークの公式アカウントを説明し、今後の検索はラインで行うことに同意を得ている。住民向けチラシの作成をした。	今年度、ネットワークの設立に至った。 今後は作成したチラシの配付等を行いながら実際の活動に備えていく。	20,000	済 25,926 予 0 計 25,926	▲ 5,926
6	まちづくりニュース作成事業 (まちづくりニュース作成実行委員会)	各実行委員会が実施した事業をまとめたニュースを発行。	市内各施設へ設置したり、まち協の活動実績を伝える「地域の子カラ展」などで配布し、広く永山まちづくり推進協議会の活動実績を周知する。	30,000	済 26,829 予 0 計 26,829	3,171

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
7	永山地区子どもの学習支援事業 (永山地区子どもの学習支援実行委員会)	公民館音楽室にて毎週月曜日、午後3時から5時まで、大学生を中心とするボランティアが、自主学習を行っている児童・生徒等の見守りを行うとともに、予習・復習、宿題の支援を行った。 実施日：令和5年4月3日～令和6年3月25日 実績： ・月曜日42回、参加者159人、大学生78人 ・夏休み期間2回、参加1人、大学生3人	学生ボランティアによる児童、生徒の見守りを行うことができた。また、児童や生徒の学習支援を行うことは、将来教員を目指している学生ボランティアの学びにもなっている。 自習室が居場所となっている利用者もいることから、今後も継続して当該事業を実施していきたい。	30,000	済 29,926 予 0 計 29,926	74
8	スープの冷めない“きずな”づくり事業 (スープの冷めない“きずな”づくり実行委員会)	1回目はR5.10.21に第2永山団地(1号棟・2号棟・3号棟)の住民を対象に開催した。三平汁とおにぎりを107名(希望者)に、旭川大学及び短期大学部の「お料理研究サークル」の学生と住民ボランティア(かよう会)が配布した。 2回目はR6.2.23に永山むつみ町内会の75歳以上の一人暮らしの方及び90歳以上の方を対象とし、町内会、民生委員児童委員の協力を得て開催した。53名の方に町内会役員と学生が一軒一軒訪問し、クラムチャウダーとおにぎりを配布し交流を深めた。	1回目に関しては、この事業で関わったメンバー同士のつながりができ、その後の活動(地域マルシェの開催)に繋がった。 2回目に関しては、今まで町内会独自で見守り事業を行っていたが、今回は民生委員児童委員と協働し、地域課題に関する意見交換など行うきっかけになった。また、希望した住民が笑顔で出迎えてくれたり、学生の訪問を心待ちにしたりしているなど、日頃の地域活動では見られない表情をみることであったとの報告も受けた。 学生からは、訪問した方々の笑顔を見ることができたこと、楽しみに両手で大事そうにスープを持ってくれたことが嬉しかったなどの感想を聞いている。現在、高齢者とのふれあいなどがなかなかできない学生にとっても有意義な時間だった。 今後、どのように地域に根付かせていくか、どのような人を対象とするか、栄養改善等の評価などの検討が必要である。	50,000	済 39,061 予 0 計 39,061	10,939

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
9	永山健康マイレージ事業 (永山健康マイレージ実行委員会)	<p>10月にクッキング教室と11月に健康セミナーを開催し、元気で過ごすためにはおうちの健康と低栄養予防が重要だと住民に周知した。</p> <p>9月末から医院・歯科医院、薬局、スーパー、町内会館、サークル、交流センター、永山駅にマイレージ事業のポスター・チラシを設置。住民が口腔ケアと食事の取り組みを行い応募して、協賛企業の賞品が当たる企画を実施した。1月抽選会を行い、2月上旬までに協賛賞品配布と取り組みをしての感想の聞き取りをおこなった。</p>	<p>クッキング教室は3回実施、34名参加。簡単で多くの食品数を摂取できるメニューを参加者と調理し好評を得ており、今後も開催してほしい希望があった。</p> <p>健康セミナーは1回実施、52名参加。内科的には異常がないのに歯や栄養が原因で歩けなくなっていた事例の発表をし、フレイルについて知らせることができた。</p> <p>永山健康マイレージには162名の応募があった。うち40～64歳の応募が23名あり、食生活を見直す機会になったとの声もあった。10食品群チェックでは働き盛り世代の食生活に課題があることがわかった。口腔に関しては、ハイリスク者は5割と改善はなく、ハイリスクなのに口腔体操に全く取り組んでいない方もおり、オーラルフレイル予防の取り組みが浸透していないことが課題である。</p>	50,000	済 62,746 予 0 計 62,746	▲ 12,746
10	永山南きづな・ほのぼのバザー事業 (永山南きづな・ほのぼのバザー実行委員会)	<p>障がい福祉事業所が作成したパンや木工作品等を認知症当事者や障がい者が役割を担いながら販売するバザーを開催することで、「認知症になったら、障がい者になったら何もできない!」というイメージを払拭しつつ、当事者が活躍でき、再度、社会に繋がることができる場とする。</p> <p>地域の施設や住民が絆を深めながら活躍することで、「あらゆる年齢のすべての人々の健康な生活を確保し、福祉を促進する」というSDGsの目標を達成する役割を担い、地域社会との関わりを持つことにつなげる。</p> <p>今年度はR5.10.12(木)にこぼと会館で「永山南きづな・ほのぼのバザー」を実施し、70～80名程度の来場者があったと思う。</p>	<p>認知症、障がい当事者の方には商品の販売や赤い羽根共同募金の受付等を担当してもらい、来場者の方と交流、対応をすることで生きがいにつながっている。</p> <p>また、地域企業として、北かり様や男山様にも当日の協力、協賛をいただいている。</p> <p>バザーで売り上げた収入については、当事者の方の給料や赤い羽根共同募金へと還元している。</p>	50,000	済 45,709 予 0 計 45,709	4,291

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
11	永山南地域ボランティア養成事業 (永山南きづな連絡協議会)	地域の困り事として、除雪や自宅内のちょっとした作業など様々なものがあるが介護保険サービスでは対応出来ないことが多く、現状、既存のインフォーマルサービスや個人への厚意や親切によって対応されている状況にある。今後高齢化が進み、サービスを必要とする方が増えることも予想され、地域で活動出来る方の把握を行い、現役世代や福祉関係機関も巻き込みながら困り事のある地域住民を永山南地域の方で支えられるような体制構築を目指す。まずは、毎年相談が多く課題となっている「除雪」に焦点を当ててボランティア発掘、体制づくりを進めていくことを実施した。	生活課題である除雪に関するボランティアの発掘を目的に、昨年度から旭川永嶺高等学校（アウトドア同好会）と連携を図り、除雪ボランティアの人数や範囲を広げて行くことも想定し、アウトドア同好会顧問と同好会以外での活動者について引き続き話を進めていたが、学校側としての意見もあり、現段階では活動の拡大へとは至らなかった。アウトドア同好会による除雪活動は継続しており、除雪困難者とのマッチングの上、昨年度と同様に除雪活動を行っている。また、同好会活動とは別に、市社協のスノーサポート隊への登録について周知し、生徒数名がスノーサポート隊への登録に至っている。	50,000	済 予 計	0 0 0 50,000
12	高校生と高齢者の合同演奏会事業 (高校生と高齢者の合同演奏会事業実行委員会)	R5.5.21に地域のデイサービス「生きる音」の利用者と、旭川志峯高校吹奏楽部が永山公民館講堂で合同の演奏会を開催。会場は座りきれないほどの来場者で溢れ、小さな子どもたちも飛び入り参加し、和やかに楽しいものとなった。	参加した利用者から家族に楽器の演奏を褒められたと報告があり、介護認定を受けているような高齢者もいきいきと練習していても生きがいになっているようだ	30,000	済 予 計	30,000 0 30,000 0
13	永山魅力発見隊事業 (永山魅力発見隊実行委員会)	R5.8.9に永山南小及び永山西小5～6年生を対象に、永山のいいところを見つけてもらう『永山魅力発見ツアー』を実施。永山南小3名、永山西小6名、合計9名が参加した。旭川農業高校では3つのグループに分かれ、農高生が企画した「農場スタンプラリー」に参加。その後上野ファームでガイド付きの散策を楽しんだ。ツアーの様子をまとめたツアーレポートを作成し、永山にある4つの小学校の全児童に配布したほか、公共施設にも設置。北海道新聞に記事が掲載され、S T Vとケーブルテレビポテトの番組で放送された。	参加した児童及びその保護者からアンケート調査を実施したところ、両スポットの知らない部分をたくさん見ることができ、それを周りに伝えていきたいという声が多くあった。また、夏休みの自由研究の課題として画用紙にまとめてくれた児童もいる。今年度は初めての実施だったので対象を絞り実施したが、今後も参加対象を広げたり訪問施設を変えながら事業を実施予定。	34,000	済 予 計	20,928 0 20,928 13,072
		全実行委員会合計	全実行委員会合計	384,000	済 予 計	258,489 0 258,489 95,511